

# ブラジル満喫デーを開催しました!!!

日本とブラジルの交流が始まってから100年という節目の年が過ぎました。このイベントは、これからも末永く両国が良好な関係を築き、共に鈴鹿のまちづくりを進めるためにも、ブラジルを見つめ直そうと企画いたしました。8月29日(土)牧田コミュニティセンターで実施し、68名の方にご参加いただきました。

## 第一部【ボサノバ演奏！】

Tempo Feliz は、四日市を中心にいろいろな所で演奏活動しているグループです。

途中で、ゲストとしてラティーノノドジマンに出演した鈴鹿在住の宮原マルコスさんが、ボーカルで参加し、大変盛り上がりました。ゆったりした上品な演奏で、優雅なひと時を過ごすことができました。演奏された曲の一部を紹介しますネ。



(左からジョルジ、タカ、シホ、ウッディ!)

- ・ エントレ アミーゴス
- ・ 黒いオルフェ
- ・ ふるさと・浜辺
- ・ 川の流れるように
- ・ ダイアナ
- ・ イパネマの娘 …etc



(Tempo Feliz と マルコスさん)



(たくさんの方がご参加くださいました。)

## 第2部【ブラジル体験談！】

JICA ボランティアとしてブラジルで活動した藤原瞳さんのお話を聞きました。

ブラジルはたくさんの国の人々が共存している多文化社会で、町で出会う人は肌の色も、目の色もさまざま、本当に多様性に富んだ国です。

大晦日には、海で波を7回飛び越えるといいことがあるそうです。また、その時は白い服を着ることが多いようで、白い服には平和への思いが込められているそうです。

ブラジルに着いた当初、バスに乗ること一つとっても、大変でした。周りに行き先をきいても、みんなに「知らない」と言われて、不安なまま乗りました。

藤原さんが、JICA ボランティアに興味を持ったきっかけは、大学生の頃日本語を教えていた外国籍の子どもが親の都合で簡単に転校をしていき、なかなか学校になじめなかったり、日本語を習得できなかったりする現状を目の当たりにしたことでした。日本に帰ってきても、まちでブラジル人を見ると、「話したい!」という気持ちが出て、ウズウズするそうです。



(写真を交えて楽しくレクチャー)

### 第3部【みんなの町を住みやすく！】

音楽・講演の次は、地域に住む皆さんで共に生きるまちをめざし、話し合いました。グループを3つに分けてそれぞれのグループで意見を出し合いました。時間が足りないくらい活発に意見交換ができました。

ゴミがたくさん捨ててあったアパートをそこに住んでいたブラジル人と一緒にきれいにし、いまでは、そこに住んでいる人たちが自分たちできれいにするようになったという成功体験も出て、拍手が沸きました。

外国人からは、「これからも日本で生活するためにはもっと日本語を覚えなければいけない」、「地域のイベントなど情報をもっとほしい」といった意見が出ました。

今後、牧田地区地域づくり協議会でさらに話し合いが続けられる予定です。



(体験談から課題解決へ、みんな真剣です！)



(地域の課題を出し合いました。)



(日本語、粗大ゴミなど課題が出ました)

会場では・・・

フェアトレードのコーヒーコーナーでは、チャリティで、ブラジルのコーヒーの試飲ができました。コンデンスミルクをそのまま入れて、とても濃いコーヒーにあま〜いミルクが味を引立たせ、とてもおいしかったです。皆さんにご協力いただいたおかげで、5,993円集まりました。このお金はユニセフに寄付させていただきます。

また、フェアトレードクッキーや、乾燥パイナップルを試食することも出来ました。



(フェアトレードコーヒー)

そして、すずかのブラジル人の団体 União Brasil Japão (絆 ブラジル 日本) に、ブラジルの軽食やお菓子を出してもらいました。パイやケーキなど日本のものとは違う味に舌鼓を打ちました。UBJの皆さん、ごちそうさまでした！



(UBJのコーナー「Doce e salgados」)



(ブラジルボックス)



(フェアトレード商品)



(ブラジルゆかりの様々な品)



(移住当時のパネル)

中身は・・・